

## 4つ目のしるし：五千人を養う

ヨハネ福音書6:1-15

【新改訳2017】

- 6:1 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、ティベリアの湖の向こう岸に行かれた。
- 6:2 大勢の群衆がイエスについて行った。イエスが病人たちになさっていたしるしを見たからであった。
- 6:3 イエスは山に登り、弟子たちとともにそこに座られた。
- 6:4 ユダヤ人の祭りである過越が近づいていた。
- 6:5 イエスは目を上げて、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」
- 6:6 イエスがこう言われたのは、ピリポを試すためであり、ご自分が何をしようとしているのかを、知っておられた。
- 6:7 ピリポはイエスに答えた。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」
- 6:8 弟子の一人、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。
- 6:9 「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。」
- 6:10 イエスは言われた。「人々を座らせなさい。」その場所には草がたくさんあったので、男たちは座った。その数はおよそ五千人であった。
- 6:11 そうして、イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから、座っている人たちに分け与えられた。魚も同じようにして、彼らが望むだけ与えられた。
- 6:12 彼らが十分食べたとき、イエスは弟子たちに言われた。「一つも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい。」
- 6:13 そこで彼らが集めると、大麦のパン五つを食べて余ったパン切れで、十二のかごがいっぱいになった。
- 6:14 人々はイエスがなさったしるしを見て、「まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。
- 6:15 イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。

### 【祈りながら考えよう】

- ピリポを始め、弟子たちはこの奇跡を通してどのような教訓を与えられましたか。
- 5つの大麦のパンと2匹の小魚を持っていた少年の行為から何を学びますか。
- 人々がイエスを王にしようとしたのに、なぜイエスはそれに応えなかったのですか。

### 【解説】

ティベリア

#### (1) ガリラヤの湖の向こう岸に行かれた

《その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、ティベリアの湖の向こう岸に行かれた》(1節)

「その後」という表現は、5章の出来事から一定の時間が経過したことを意味している。この時、イエスはガリラヤ湖北西岸のあたりに来ておられた。「湖の向こう岸へ行かれた」とは、おそらく湖の北西の岸部から北東のベツサイダ(マルコ6:33)付近の岸辺まで移動されたということである。



ガリラヤ湖は別名、ティベリア湖としても知られていた。ティベリアの町が西岸にあったからで、ティベリアはガリラヤ地方の首都、ローマ皇帝ティベリウス(BC42-AD37)にちなんでつけられた名前であった。

#### (2) 大勢の群衆がイエスについて行った

《大勢の群衆がイエスについて行った。イエスが病人たちになさっていたしるしを見たからであった。

イエスは山に登り、弟子たちとともにそこに座られた》(2-3節)

なぜ、大勢の群衆がイエスについていたのか。それは主「イエスが病人たちになさっていたしるしを見たから」である。いつの時代でも、人々はしるしに驚かされる。主イエスのご人格や教えに驚嘆したのではない。しるしに驚嘆したのである。

普通一般の人は無力である。人生の上に起こってくる諸問題に対して、解決する力がないために、悩み、苦しんでいる。病気をはじめ、家庭問題、社会問題に対して、どうしていいかわからない。だから、自分たちの力を越えた力に引きつけられる。そういう人にあこがれる。そして、そういう人について行くのである。

主イエスは、この時、ガリラヤ湖北西岸のあたりに来ておられた。弟子たちと一緒に小高い丘に登られて、そこに座っておられた。そこは、大勢の群衆が集まるのに適した場所であった。

#### (3) ピリポに大切な教訓を与え、その信仰を試す

《ユダヤ人の祭りである過越が近づいていた。イエスは目を上げて、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て、

ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」イエスがこう言われたのは、ピリポを試すためであり、ご自分が何をしようとしているのかを、知っておられた》(4-6節)

時は過越の祭りが間近になっていたころであった。すると、大勢の群衆がこちらにやって来るのが見えた。

その時、主はピリポにこう言われた。

《どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか》

それは、ピリポを試すためであったとヨハネは記している。主はピリポにきわめて大切な教訓を与え、またその信仰を試そうとおられた。

#### (4) ピリポの答えとアンデレの信仰

《ピリポはイエスに答えた。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」

弟子の一人、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。》(7-9節)

ところが、ピリポの答えは極めて消極的であった。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません」彼は「足りません」と言って、できないことだけに目をやっている。

常識的な見方で見れば、確かにその通りである。もしもここに信仰の目があれば、その不可能な面だけを見ないで、可能な面を見ることができたはずである。しかし、私たちはピリポを笑うことはできない。私たちもしばしばピリポのように、常識の目でしか見ず、そして解決はできないと考えてしまうからである。現象として現れているものしか見ることのできない人は、いつもこのような見方、考え方しかできない。

ピリポはすばやく暗算をし、二百デナリ相当のパンでも、一人ひとりにごくわずかの食事を出すのに十分ではないという結論を出した。

当時、二百デナリでどれほどのパンが買えたのか、正確なところはわからない。しかし、大変な量であったことは間違いない。1デナリとは、労働者ひとりの1日分の賃金であった。

しかし、アンデレは少し違った。彼はこう言っている。

《ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。

でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう》

アンデレも「何になるでしょう」と言って、不可能な面を見ていないわけではないが、それでも主への期待と信頼を持っていた。だから、子供の弁当とも言うべき5つのパンと2匹の魚を、主のみもとに持って来た。

信仰の目を持って見るとはどういうことかと言うと、この世界に起こる現象だけを見ず、その背後にあって、それを支配しておられるお方がおられることを見ることである。そこには、この世界を造り、支配しておられる主イエス・キリストがおられた。

このお方は今まで何回も奇蹟をなさったお方であり、ただ単なる人間ではない。このお方が常識を越えたことをしてくださることを信じ、期待する目を持っている人は、どんな場合にも行き詰まってしまうず、大きな希望を持ち続けることができる。

#### (5) 人々を座らせ、満腹させ、残ったパンは十二かごにいっぱいになる

《イエスは言われた。「人々を座らせなさい。」その場所には草がたくさんあったので、男たちは座った。

その数はおよそ五千人であった。そうして、イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから、座って

いる人たちに分け与えられた。魚も同じようにして、彼らが望むだけ与えられた。

彼らが十分食べたとき、イエスは弟子たちに言われた。

「一つも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい。」そこで彼らが集めると、大麦のパン五つを食べて余ったパン切れで、十二のかごがいっぱいになった。(10-13節)

主は、人々をそこに座らせ、その子供の弁当からパンと魚を取り、感謝をささげられた。そして、それを分けておやりになると、そこにいた一万人余りの人々はみな満腹し、残ったパンを集めさせると、十二のかごに一杯になった。これは、明らかに奇蹟である。



この物語の締めくくりにはふさわしい付記である。もしイエスが単なる人間であったなら、余ったパン切れのことでわざわざ気にすることはなかっただろう。五千人を養うことの出来る人が、残り物のわずかなパン切れのことで悩むことはしない。

しかし、イエスは神である。そして神にとっては、その豊かな賜物が浪費されることがあってはならない。神はご自身が賜る尊いものが無駄に使われることを望まれない。そこで少しも無駄が出ないように残ったパン切れを集めるよう、指示を下されたのである。

#### (6) 人々の反応とイエスの態度

《人々はイエスがなさったしるしを見て、「まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。

イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。》(14-15節)

この奇蹟の後、人々はどうかと言うと、「人々はイエスがなさったしるしを見て、「まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。人々がこの奇蹟を見て、出している答えは、「世に来られるはずの預言者」であった。これは、申命記18章15節に約束されている、「モーセのよう預言者」のことであり、「来たるべき救い主」の預言にほかならない。

ユダヤ人たちは、「メシヤとなる預言者」が来ることを旧約聖書から知っていた。そしてその預言者がローマ帝国の支配から自分たちを解放してくれることを待ち望んでいた。人々は地上の君主を待ち望んでいた。

しかし、その信仰は純粋なものではなかった。イエスが神の御子であると信じ、自分の罪を告白してイエスを救い主として受け入れる、という信仰はなかった。

奇蹟の結果、人々はイエスを王にしようとした。この場面でも、もしイエスが単なる人間であったなら、その要望に応えたことだろう。人間とは自分の地位が上がり、目立つ立場につくことを何よりも渴望するものである。

しかし、イエスが虚栄心や自尊心で心が動かされることはなかった。ご自身がこの世に来られたのは、十字架上で、罪人の身代わりに死ぬためであることがわかっていた。

その目標の妨げになるものには、イエスは何一つかわろうとはされなかった。まず犠牲の祭壇に上がるまでは、王座に上ろうとはされなかった。苦しみを受け、血を流し、そして死んで後、初めて高く引き上げられるのである。

#### (7) いのちを与える主

この出来事は、主イエス・キリストこそ私たちに「いのちを与える主」であられることを教えるものである。この出来事を聖餐式と結び付けようとする人がいるが、むしろ私たちに「いのちを与えるお方」としての救い主を示すと考えるのが自然であろうと思われる。

私たちは、毎日の食事の時、それを私たちに与えてくださるお方がおられることをよく知る必要がある。ただ単に自分が働いたことによって食べられるのだと考えて、事終われりとするべきではない。私たちが働くことができるのも、働いた結果、給料をもらうことができるのも、主がそのようにしてくださるからである。

それは「肉体のいのち」だけではない。「霊的いのち」もそうである。主を離れて、およそのちを持ち、また保つことなどできないのだということを、しっかり心に銘記し、主にいつも深い感謝の気持ちを持つようにしなければならない。

アンデレが主イエスの所に持って来たのは子供のひとり分の弁当にすぎなかった。それは、一人前の大人にはまことに不十分なものであった。しかし、主イエス・キリストの御手の中に入れられると、それは、一万人以上の人々の空腹を満たすのに十分であった。

私たちも、力のない、何の取り柄もない者であるかもしれない。しかし、主イエス・キリストの御手の中に入れられるなら、多くの人の役に立つ者としていただくことができる。あなたは子供のひとり分の弁当のような存在でも、今、主イエス・キリストの御手の中にすべてを投げ出そう。

先週の学びの補足資料

## J-ばいぶるGREEK 原書講読画面

ヨハネ 5:39

ἐραυνᾶτε τὰς γραφάς, ὅτι ὑμεῖς δοκεῖτε ἐν αὐταῖς ζωὴν αἰώνιον ἔχειν καὶ ἐκεῖναί εἰσιν αἱ μαρτυροῦσαι περὶ ἐμοῦ

### <文法解析ノート> Joh 5:39

- [1] ἐραυνᾶω ἐραυνᾶτε (エパナウ) vipa--2p/vmpa--2p 動)直現能2複/命現 調べる/調べなさい  
[2] ὁ τὰς dafp 冠)対女複 冠詞(この、その) [3] γραφή γραφάς, n-af-p 名)対女複 書、聖書  
[4] ὅτι ὅτι cs 接)従 ~と、なぜなら [5] σύ ὑμεῖς npr-2p 代)主2複 あなた  
[6] δοκέω δοκεῖτε vipa--2p 動)直現能2複 思う、考える [7] ἐν ἐν pd 前)与 中に、間に、で、よつて、に、  
[8] αὐτός αὐταῖς npdf3p 代)与女3 彼・それ(三人称の代名詞)、自身(強調用法)、同じ、まさに  
[9] ζωὴ ζωῆν n-af-s 名)対女 いのち、生存、(永遠の・神の)いのち  
[10] αἰώνιος αἰώνιον a--af-s 形)対女単 永遠の  
[11] ἔχω ἔχειν vnpa 不定)現能 持つ、保つ、できる、~である  
[12] καὶ καὶ cc 接)等 そして、~さえ、しかし、しかも、それでは、そうすれば  
[13] ἐκεῖνος ἐκεῖναί apdnf-p 指示)主女複 それ、彼、あの、その  
[14] εἰμί εἰσιν vipa--3p 動)直現能3複 ある、~である、~です  
[15] ὁ αἱ dnfp+ 冠)与女複 冠詞(この、その)  
[16] μαρτυρέω μαρτυροῦσαι vppanf-p 分)現能主女複 証言する  
[17] περὶ περὶ pg 前)属 ~のこと [18] ἐμός ἐμοῦ nprg-1s 代)属1単 わたしの、わたしのもの

### <聖書翻訳比較ノート>

【新改訳2017】あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。/直接法)

(別訳:あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思っています。聖書を調べなさい。その聖書は、わたしについて証しているものです。/命令形)

【新改訳改訂3】あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。

【口語訳】あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。

【新共同訳】あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

【NKJV】“You search the Scriptures, for in them you think you have eternal life; and these are they which testify of Me.”

【TEV】You study the Scriptures, because you think that in them you will find eternal life. And these very Scriptures speak about me!

【KJV】Search the scriptures; for in them ye think ye have eternal life: and they are they which testify of me. (命令形)

【NIV】You diligently study {[39] Or <Study diligently> (the imperative)} the Scriptures because you think that by them you possess eternal life. These are the Scriptures that testify about me,

【LIB】あなたがたは、永遠のいのちを見つけようと、熱心に聖書を調べています。その聖書は、わたしを指し示しているのです。